

アミーゴ会だより

2014年4月
通巻第18号
季刊 2014-II



発行人：上原尚剛
編集人：河嶋正之
 鴻巣勝明
事務局：笠井道彦

TPP 交渉に関連し、 10年前の日墨経済連携協定締結時の交渉経緯を想う

アミーゴ会副会長 中嶋 誠

環太平洋経済連携協定（TPP）交渉の現況は、日米両国が関税撤廃などを巡って対立、また米国と途上国の間でも知的財産権保護や国有企業に関する競争政策を巡っての主張の隔たりが大きく、膠着状態にあると言われていています。本年秋実施予定の中間選挙前に一定の成果を挙げたい米国政府と、これに対する各国政府が今後どんな手立てをしてくるのか、それとも妥協してくるのか、妥協点はどこにあるのか等、TPP に対する関心は増すばかりです。

と言うのも、丁度 10 年前にメキシコ住商社長としてメキシコに駐在し、メキシコ在の日系企業で組織するメキシコ日本商工会議所（以下カマラと略/Cámara Japonesa）の会頭として日墨経済連携協定（日墨 EPA）の実現に向け、カマラの同僚と文字通り寝食を共にして活動し、それも日墨 EPA 交渉があるからと、ライバル商社の社長の直願で、それまで前例の無かった二期連続で 2003 年度、2004 年度とカマラ会頭を務め、正に交渉の大詰めの際に日墨 EPA に深く関わっていたからです。

当時メキシコは GDP 比で世界の 8 位乃至 9 位の位置を占め、私が 2001 年 1 月にメキシコに赴任した当時は、「G8 の仲間入りを宣言」などと威勢の良い見出しが紙面を賑わせていました。それに何と言ってもメキシコが自由貿易協定（FTA）を取り交わした国は、米国やカナダとの北米自由貿易協定（NAFTA）を始めすでに 30 ヶ国ほどあり、メキシコは正に FTA 大国でした。日本はと言えば、メキシコとの FTA 交渉はシンガポールとの協定に続いて 2 番目でした。それも FTA 交渉を行う両国が多く sensitive item を持ち、両国間の政策や制度にも違いがあつて、これらを交渉に依って妥協点を見出して行くのが FTA 交渉だとの観点で言えば、自由貿易国であるシンガポールとの FTA は埒外で、日本にとって日墨 EPA は本格的な自由化交渉を要する初めての FTA でした。そんな中、日本にはメキシコとの EPA 締結に反対する意見が官民間問わず依然として多くありました。話がやや逸れますが、今でこそ FTA 推進論者として名が通っている国立大学の某教授が、FTA 推進のコメントを専門誌に載せたり、テレビに顔を出し始めたのは、日墨 EPA 交渉が開始され、見通しがついた 2003 年に入ってからのことです。

FTA や投資環境を整備する為の協定も包括している EPA を締結するとなると、既にその地に工場を持ち現地産の部品を使って製造している日本企業と、日本製の製品をその地に売り込もうとしている日本企業との間には、相反する利害が生まれます。市場戦略も異なります。しかしながら、カマラの全メンバーは、私がメキシコに赴任した当時には、カマラ内部での働き掛けや意見調整によって、メキシコと EPA を締結していないことで生じていた様々な不利益やハンディキャップを理解し、直ちに EPA を締結すべしとの意思統一が図られていました。しかもカマラとしての活動が進むにつれ、メキシコとの EPA を“より”自由な貿易と経済交流を図るための tool にしようとの“高い志”が、カマラメンバーの中に広がって行ったと思います。

＝ 目 次 ＝

1. 「TPP 交渉に関連し、10 年前の日墨経済連携協定締結時の交渉経緯を想う」 副会長 中嶋 誠 ... 1
2. 活動報告：「2014 年度総会・懇親会」「アミーゴ魂の発露」「島田会員の手紙」「講演会の予告」 ... 3
3. メキシコ報告：「メヒコの寛容と慈愛：大平正芳公園」 アミーゴ会メヒコ代表 遠藤滋哉 ... 6
4. メキシコへの誘い：「400 年後のサムライ、中央高原の旅」 旅たび東洋発行人 松枝勝利 ... 8
5. メキシコへの誘い：「レフォルマに並ぶ歴史 その 3」 メキシコ観光(メキシコ) ... 10
6. メキシコと私：「メキシコの子供たちに絵本を贈る」 NPO 法人クロスワイズ理事長 横井恵子 ... 12
7. お知らせ：リセオ高校生受け入れ家庭の募集(p7) / トピックス：メキシコ日本交流年関連(p9 / p11)

カマラとしての活動は、日墨の官民双方の協定関係者を対象に意見交換や説明、陳情を行うことを軸に、カマラ内の FTA 委員会を中心に組織的に行われました。交渉が詰めの段階に入った 2003 年の 4~5 月には、ホテル日航内の日本料理店「弁慶」で、時に協定関係者と、時にカマラメンバーと日墨 EPA 絡みの夕食懇談会を毎晩の様に重ねていた記憶があります。カマラの FTA 委員長と頻りにメキシコ経済省を訪ねて担当課長と意見交換を行いました。相手は FTA 大国なので、当たり前と言えども当たり前ですが、日本の交渉団はどのように組織されていなければならないかで、教えられることが実に多かった様な気がします。日墨間交渉も交渉場所を今回はメキシコ、次回は日本、と交互に換え、論点は煮詰まり、落としどころも見出せているようでした。

そして迎えた 2003 年 10 月、東京でこれが交渉の最終となると目された閣僚級折衝が行われることになりました。同時にフォックス大統領（当時）の国賓としての来日も発表され、これは間違いなく交渉は決着し、大統領と小泉首相（当時）の間で、日墨 EPA 締結調印が実現する筈だと、我々の期待が膨らみました。私は、毎年この時期に勤務先の東京本社で国内外の主管者を集める会議があり、このため日本に出張していました。この東京で行われた交渉にも、メキシコ側は交渉団の正式な諮問機関として、COECE（外国貿易企業間調整評議会）という規模は異なるが日本の経団連に近い経済団体のメンバーを同行させており、そのメンバーの中の何人かは私の知己であったので、交渉決着の朗報でも聞こうかと高揚する気持ちを抑えつつ、交渉の会場となった帝国ホテル（だったと思いますが）に向かいました。

しかし、勇んで聞いた結果は、交渉決裂。フォックス大統領も来ないのではというものでした。その後、大統領は来日し、交渉も継続したのですが、結果を聞いたその時は本当にショックでした。カマラのメンバーにも、今まで取り組んできた粉骨砕身の活動からの反動でしょうか、虚脱感に近い感情が一時的ではありましたが広がったのを覚えています。

交渉決裂後の 2003 年 11 月、日本の内閣官房から高官がメキシコに派遣されてきました。メキシコ側との意見調整のためだったのでしょうが、私には「やっと内閣官房が日本の各省間の意見調整に乗り出した。これで今までの各省縦割りネゴによる日本側の意見不統一が解消出来る」と映り、メキシコとの交渉も決着出来ると期待を寄せました。実は、この高官によるカマラ幹部に対する日墨 EPA 交渉経緯説明会の様な集まりがあったのですが、恐らく日本の各省からメキシコ側の意向に関する必要な情報が入っていなかったのでしょうか。席上、高官から 10 月の交渉が決裂に至った理由は、「交渉の最終段階になって、メキシコ側が新たな要求を出してきたため」として、具体的には「メキシコ側がオレンジジュースの対日輸出枠を新たに要求して来た」との説明があったと記憶します。しかし、カマラの幹部からは、「これは新たな要求ではなく、交渉が始まった当初からメキシコ側にあった主張だ」との指摘があり、メキシコ側が行って来た要求の内容と交渉手順を日本の交渉団は理解した上で対応すべきであったとの声が上がりました。この高官との集まりでは、10 月の交渉決裂に対するカマラ全員の虚脱感を払拭するかの様に、幹部各位から切迫感に溢れた意見が多く出ました。

日墨 EPA 交渉は、高官来墨翌年の 2004 年 3 月、日墨関係閣僚間のビデオ会議を通じて基本的な合意に達し、1 年半、14 回に及んだ交渉は漸く決着を見、同年 9 月小泉首相（当時）が来墨し、メキシコ大統領と共に協定書に署名しました。

2003 年度、2004 年度と正に、日墨 EPA 交渉期にカマラの会頭であった私は、カマラのメンバーである FTA 委員長を始めとする幹部各位の献身的な働きと、メキシコ・ジェトロ駐在員のプロとしての働きを見てきました。日本が EPA や FTA を締結した他国と比較は出来ませんが、メキシコにおいてカマラが交渉実現に向け果たした役割は大変大きなものであったと確信しています。

私自身、メキシコの工業製品や新たな農産品も日本向けに輸出の可能性はないのかと、西村六善大使（当時）の鞆持ちで、地方の市主催の輸出促進会の様な会に出て、輸出希望者の相談相手を務めたり、メキシコ下院貿易部会の公聴会に招かれ、日墨間貿易の現状について説明をしたり、と貴重な経験を得ました。また日本大使公邸でのメキシコ下院議員との意見交換会では、1913 年のクーデターで亡くなったマデロ大統領の孫である婦人議員と偶々席が隣り合わせとなり、堀口大使（クーデター勃発当時。正式には臨時代理公使）の武勇伝と日本人に対する感謝の念を聞かされた時には、会頭としての役得に心から感謝したものです。今は亡き中川昭一議員も交渉期に来墨し、同じく大使公邸でお話する機会がありました。同議員が A3 大のノートに、私がメキシコの投資環境等について説明したことを、熱心にメモをとっていた姿を昨日のことの様に思い出します。（平成 26 年 2 月 10 日記）



日墨 EPA 交渉略史：「日墨 EPA は日本にとって農産品自由化を含む実質的に初めての FTA」

- 2002 年 11 月交渉開始→ 2004 年 3 月実質合意→ 2004 年 9 月 17 日首脳署名@メキシコ
- 2004 年 11 月国会批准（日本：衆議院 11 月 2 日/参議院 11 月 10 日/メキシコ：上院 11 月 18 日）
- 2005 年 4 月 1 日発効

〔注：本囲み記事は編集部付記/写真はカマラ経済調査委員会『2004 年度年報』より転載〕

2014 年度アミーゴ会総会・懇親会の報告

アミーゴ会事務局長 笠井道彦

2014 年度総会・懇親会は 3 月 15 日（土）午前 12 時より、銀座一丁目のレストラン「ゼスト」の 2 階にて開催されました。参加者は当初予定を大幅に越える 48 名。久しぶりに参加された林屋永吉さんと西村六善さんの両大使を始め、メキシコからお帰りになった黒沼ユリ子さん夫妻、御宿からわざわざ参加された土屋武彌さんと貝塚嘉軼さんなど、懐かしい顔が揃いました。



上原会長の開会挨拶の後、事務局長より「2013 年度決算」の報告と「2014 年度予算案」の提案があり、下記の通り総会の承認がなされました。また、森幹事より「メキシコ文化歴史講演会」について日程が決まり次第会員にご案内する旨の報告がありました。支倉使節団派遣 400 周年および日墨交流年の記念行事の一つとして、全 4 回シリーズの講演会が 5 月から開催されます。乞うご期待（別項「講演会の予告」参照）。

その後、鴻巣幹事より 2 月 15 日の大雪で、群馬でサボテン群仙園を経営する島田明彦会員のビニールハウスに大被害があることを紹介。アミーゴ会としてのお見舞金を幹事会で検討したが、総会参加者の志を募り寄付を行いたいと呼びかけ、募金が集められました。総額 16 万 3 千円の寄付が内外から寄せられ、瀬下幹事の手で 3 月 25 日、島田さんに直接届けられました（別項「アミーゴ魂の発露」参照）。



懇親会では、メキシコ代表の遠藤滋哉会員から彼の地にて高橋画伯が託されたテキーラの栓も抜かれ、皆さんの素早い味見で瞬く間に空けられました。閉会前には、今後の総会・懇親会の開催時間帯を夜にするか、昼にするかの決が採られ、今回と同様に来年からは「3 月上旬の昼の開催」とすることとなりました。（了）

表 1. 平成 25 年度決算(2013 年 9 月 1 日～12 月 31 日)

収入	金額	備考
会費収入	633,000	
事業収入	25,000	
広告料	12,500	ホームページ広告
寄付金	4,000	会員より
収入計	674,500	
支出	金額	備考
郵送料(会報郵送+会費請求書)	17,360	郵送 48 名 + 請求 169 名分
通信費(総会通知葉書)	25,000	
事務所コピー代	9,450	アミーゴ会便り(白黒)
HP システム維持	3,500	HP 更新・改修
交通費	54,890	大阪(往復)x2人
幹事会費(東京・西日本)	52,675	
ゴルフ交流会補助	50,000	
事務用品費	7,205	
小口現金残	55	
振込み手数料	2,415	
支出計	222,550	

表 2. 平成 26 年度予算(2014 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

収入	金額	備考
会費収入	191,000	注：2014(H26)年度分の会費は 2013(H25)年度に大部分が徴収済み(表 1 参照)。
講演会収入	0	
広告料	45,000	
収入計	236,000	
支出	金額	備考
行事費		
文化歴史講演会	120,000	@30,000x4 回
リセオ・ホームステイ補助	45,000	(非会員 HF) 3,000x15 名分前提
ゴルフ交流会補助	50,000	
フィエスタ・メヒカーナ補助	54,000	2014 年 9 月 13～15 日@お台場
通信費・郵便料	40,000	
事務費・コピー代	30,000	『アミーゴ会だより』郵送会員分
事務費・HP(システム維持)	15,000	
交通費(28,000x4)	112,000	大阪往復(1 回分)、東京往復(3 回分)
幹事会会場費・食費	100,000	東京幹事会+西日本幹事会・懇親会
振込み手数料	2,000	
支出計	568,000	

注：支出項目を実態を反映するように再編

平成 25 年 12 月 31 日現在の残高

収入-支出(25 年度残高) (674,500-222,550)	451,950
前期繰越額	2,040,353
次期繰越額	2,492,303

注：南郷監査役 3 月 13 日監査済み

平成 26 年度期末残高

収入-支出(25 年度残高) (236,000-568,000)	-332,000
前期繰越額	2,492,303
次期繰越額	2,160,303

注：赤字の理由は収入備考欄の注参照

アミーゴ魂の発露

アミーゴ会幹事 瀬下昭直

3 月 25 日午後、前橋市の島田さんを訪問、皆様のお見舞い金を渡してきました。ご本人は皆様のご厚意に大変感謝して、どのようにお礼を申し上げて良いかわからぬ、と言っていました。少し落ち着いたなら、お礼の

手紙を書きたいとも言っていました。
2 月 15 日以降しばらくは食事ものを通らず、食欲もなかった由。最近になってやっと笑顔も出て、少しづつかたづけを始めたとのこと。

被害状況はあらかし下記の通りです。



・ビニールハウスは全部で7棟(600坪が1棟、90坪が6棟)、このうち90坪の2棟のみ被害を免れ、あとは雪の重みで支柱

が曲がり、ビニールもはがれ、ほぼ全壊で、サボテンが野ざらしとなった。2月15日は積雪約1メートルで、現場での作業もできなかった。被害総額:約1億9,000万円

・多品種少量というコンセプトで20年やってきたので、所有のサボテンは約3,000種、このうち2,000種が寒さで駄目になった。大学と共同で育てていたメキシコの珍しい貴重な品種も含まれている。サボテンは生育が非常に遅く(ゆっくりで)、中には20年掛けて育てていたものもあった。

・何とか再建してやり直そうと考えているが、ビニールハウスの建設業者、資材が不足していて新しいハウ

ス建設時期の見通しが全く立たない。恐らく、最低でも5~6年は覚悟しないとイケないと思っている。



・前橋近郊のビニールハウスの90%(80カ所)が今回被害にあった。ハウス1棟を建てるには突貫工事でも約40日必要で、

今の処いつ来てもらえるか不明。

以上が現状と島田さんとの話の内容です。島田さん以外に若いスタッフ2名と計三人で今日も汗だくでハウス内の枯れたサボテンをかたづけしていました。(了)

【編集部注: 島田会員は過去2回にわたり総会・懇親会の参加者に貴重なミニサボテンを多数贈呈する労をとられました。また、島田会員の経営する「群仙園」については、『アミーゴ会だより』の2012年4月号(通巻第10号)に蔵野編集委員の手になるレポートが「サボテンをこよなく愛する男」と題して掲載されています。アミーゴ会のホームページ(<http://www.mex-jpn-amigo.org/>)からお読みください。】

群仙園・島田会員よりの御礼の手紙

【編集部注: 「アミーゴ魂」の発露で募金頂いたお見舞い金を、大雪の被害に遭われたサボテン生産「群仙園」経営の島田明彦会員に瀬下幹事が直接お届けしたところ、折り返し同会員から丁寧なお礼の手紙が寄せられました。一日も早い復興を祈念します。】

メキシコ・日本アミーゴ会 会長 上原尚剛様

前略 はじめまして。島田明彦です。会員でありながら仕事の関係もありまして、なかなか総会に出席できなくて申し訳ありません。そんな中、今回私どもの雪の被害に心暖まるお心遣い真に有り難うございます。

今回、アミーゴ会の皆様にお礼の手紙を書かせて頂きました。乱筆乱文にて失礼致します。

3月25日に、瀬下昭直さんが直接御見舞金を持って来て頂いた時、被害状況の写真をCDにしてお渡ししました。皆様で見てもらえるとありがたいです。

私としましては、何としても再建し、サボテンを通じて、メキシコと日本の掛橋になればと考えています。

今後共宜しくお願い致します。

敬具

2014.3.28 島田明彦

メキシコ・日本アミーゴ会の皆様へ

前略 この度はアミーゴ会の皆様の心暖まるお心遣い真に有り難うございます。また、3月25日に瀬下昭直さんが直接御見舞金を持って来て頂き、重ねて御礼申し上げます。皆様からの応援がこれから一から出直す私たちにとって大変心強く思います。群仙園一同、衷心より感謝申し上げます。

今回2月14日(金)~15日(土)に豪雪になり、温室11棟が倒壊してしまいました。被害面積は4,345.2㎡でした。全体の70%になります。

14日の天気予報では「雪は夕方雨になり、その後止む」ということでしたから、ほとんどの人は、たいしたことのない雪であると安心していました。ところが、結局73cm降り、120年前からの観測から初めての記録的な大雪となってしまいました。

私は15日夜中1時30分頃、雪がなかなか降り止まないで温室の様子が心配になり、事務所から500m程離れた1,800㎡(545坪)の大温室に膝まで積もった雪を掻き分けながら、とても歩きづらい中、汗びっしりになりながら、やっとの思いでたどり着きました。

その時は温室が潰れるとは思っていませんでしたので、ソチオリンピックをラジオで聞きながら植物の植え替えをしていました。その後、朝5時頃、まだ雪は降り止むことはありませんでした。心配になり温室の外を見たところ、あるはずのドラム缶が雪で埋まっているのを見てビックリしました。記録とは別に、場所によって降る量は異なっていたようです。この時、周囲の温室の様子が大変気になり出しました。しかし、まだ暗かったので、明るくなってから他の温室を見て回ろうと思っていました。

外が明るくなった朝6時半頃、私は大温室の東側に出て周囲を見渡して見たところ、草花を生産している1,500㎡の温室がペシャンコになっていて、その左側の野菜を作っている温室が8棟全壊、そして右側に目をやり、自分の温室を見ると、同様に倒壊していました。

私は初めて膝から雪の中にくずれ落ちました。頭の中はまっ白になり、一時茫然としてました。しかし、とにかく倒壊した温室を見に行かなくてはいけないという気持ちが先立ち、大温室の東側から西側まで90mの温室内を早歩きで外へ出て、大温室の北側の道路を腰の上まで雪を掻き分け掻き分けして、なかなか前進できない中、汗びっしょりになり、やっとの思いで、倒壊した温室を確認しながら事務所に到達出来ました。通常ならば10分もあれば十分に到達する距離です。事務所へ到達した時、時計を見ると7時30分でした。約1時間掛かったこととなります。

大温室を出た時は、この温室は無事でしたので、事務所に到達した時、早速、従業員2人にケイタイで連絡し、大温室は無事で、他の温室が10棟倒壊している状況を伝えました。その後7時40分頃、無事だった大温室を見に行くことにしました。また、雪を掻き分けながら行くことになりました。だんだん大温室が見えて来て、いつもと違った様子が目に入ってきた時、大温室も見事に雪でペシャンコになっていました。私は大温室を見に行く気力がなくなり、そのまま事務所に引き返しました。再度、従業員に悲しい知らせを伝えることになってしまったわけです。

その日から、積雪の量がなかなか減らず、一週間、事務所に泊まる羽目になってしまいました。

雪をうらみ、天気予報をうらみ、もしました。しかし、うらんでも仕方がない現実が見えて来た今、豪雪被害の前日、2月13日の状態に早く取り戻すことを前向きに考える様になりました。

被害額は、サボテンを中心におよそ1億9千万円になります。1994年にサボテンを中心とした生産事業をゼロから立ち上げ、今年2014年はまさに記念すべき20周年になる予定でした。

実際、去年は過去最高の売り上げでした。従業員とともに、今年は「いけるぞ！」と全員が仕事に熱が入り、一丸となって前進するつもりでした。

私はサボテン業を営みながら、微力ではありますが、大好きなメキシコの良さを日本人に知ってもらうために努力して来たつもりです。この20年間には、メキシコに生育する大変貴重なサボテンを多くの研究者から分けてもらったりし、コレクションしていました。しかし、それらのサボテン達は雪と温室の下敷きとなり、潰れてしまったり、寒さで凍ってしまったり、一瞬にして多くの財産を失ってしまったことは、とても残念です。そして、これらを取り戻すのは容易ではありません。

2月末時点の被害状況は、ビニールハウスの損壊が全国で1万8,951件、私の住む前橋市では約900件、90haで、90%の農家のハウスが倒壊したことになります。このことにより、再建するにも材料がまったく足りない状態です。

そこで、再建できるまでの時間、再建費用、そして運転資金が現在の大きな問題となっています。

やはり国の動きは遅いのではないのかと感じています。現在、日本の農業は高齢化している為、今回の豪雪被害により、おそらく70歳以上の方々は後継者がいないこともあり、農業を諦める農家が多いと思われます。これは日本の大きな損失となり、また、日本の農業もこの被害により急速に大きく変わることでしょう。

今後は、まず温室の再建をし、「サボテンの少量・多品種継続栽培」を群仙園の柱とし、今まで積み重ねて来た知識・技術、そして販売ルートをフルに活用することで、従業員と共に、また一からスタートを切り、今まで以上の事業に盛り上げて行きたいと考えています。

これからもアミーゴ会の皆様、応援を宜しくお願い致します。

敬具
2014.3.28
島田明彦

メキシコ歴史文化講演会 2014年の予告

アミーゴ会幹事 森 和重

「メキシコと支倉常長遣欧使節団」

～支倉使節団派遣400周年・日墨交流年記念～

メキシコ・日本アミーゴ会は、支倉使節団派遣400周年および日墨交流年の記念行事の一つとして、17世紀の日本とメキシコ(ヌエバ・エスパニア)およびスペインとの関係についてさらに理解を深めるために、日本有数の専門研究者による全4回シリーズの講演会を下記の通り企画しました。会場はメキシコ大使館別館5階“Espacio Mexicano”を予定し、時間帯は18:00～20:00(講演90分+質疑応答30分)を想定して準備を進めています。

開催日と会場が確定次第、アミーゴ会メルマガで会員にお知らせします。奮ってのご参加をお待ちします。

第1回講演会：5月開催予定

「大航海時代のなかの支倉遣欧使節団」～日本とアジア(フィリピン)・新大陸(メキシコ)関係の創成期～
講師：伊川健二 大阪大学招聘准教授

第2回講演会：6月開催予定

「私の先祖は日本のサムライだった」～400年前、ヨーロッパに消えたサムライたちは生きていた！～
講師：太田尚樹 東海大学名誉教授

第3回講演会：6月開催予定

「チマルパインの『日記』と支倉使節団」
講師：井上幸孝 専修大学文学部准教授

第4回講演会：7/8月開催予定

「メキシコの美術史に見る日本」
～支倉常長使節団と聖フェリーペ・デ・ヘスス～
講師：川田玲子 愛知県立大学外国語学部非常勤講師
以上



地図出所：朝日新聞デジタル版 2013年6月15日付けより部分転載
(<http://www.asahi.com/international/articles/TKY201306050403.html>)

メヒコの寛容と慈愛：「大平正芳公園」

アミーゴ会メヒコ代表 遠藤滋哉

「夢を見た！一大歓声が起り大勢の人々の笑顔の中には皇太子殿下、雅子妃の笑顔も見える。大きなスタジアムに花火が上がり、空中に広がるスモークにおおきく彩色の文字が浮かぶ『2024年 MEXICO であいましょう！』一夢再び！」。目が覚めて、もしや正夢か!?!。こんな夢が実現したら素晴らしいですね…本当の夢ですね。

メヒコと日本の縁の絆

言わずとも、メヒコと日本は重要な歴史の節目で「縁の絆」で結ばれています。17世紀初頭の御宿に漂着したドン・ロドリゴの故事。徳川家康への答礼使節として訪日したセバスティアン・ヴィスカイノと共に、仙台からアカプルコへ船出した支倉常長の慶長使節。その後の長い鎖国の時代を経て、維新後に渡欧した岩倉具視遣欧使節団がこれらの史実を訪問先のイタリアで知るにいたるまでは、「御宿」も「仙台」も歴史の闇の中でした。

明治新政府の悲願であった不平等条約改正も、外交の魁となった1874年のディアス・コヴァルビナス卿引率の「太陽面を通過する金星観測」隊の報告書により外交交渉の諸端が開かれ、1888年に日本にとって初めての平等条約の締結をみたのです。

ご存知のメキシコ大使館は、明治帝から感謝の意を呈して赤坂（永田町）の一等地を提供されて今に至っています。1923年の関東大震災に際しても、アルヴァロ・オブレゴン大統領は自ら率先して議会に働きかけメヒコ国民に呼びかけて、当時としては破格の義捐金を被災地の日本へ贈りました。第二次世界大戦で敗戦した日本に講和会議でいち早く平和条約締結の提言をしたのもメヒコ。日本にとって初の国際学院（LICEO＝日本メキシコ学院）の開設もメヒコ。また（農業問題が無かったシンガポールを除いて）初めての本格的な二国間 EPA（経済連携協定）の締結国もメヒコなど、日本にとってメヒコは正に友好外交史の嚆矢です。

日本庭園はメヒコの寛容

そんなアミーゴの首都メキシコ市の南郊、名門コヨアカン・カントリークラブの一面にある、あまり知られていない「大平公園」のお話を紹介しましょう。



この公園の始まりは、駐日大使を務めたこともある当時のメキシコ市長（＝都知事）ハヴィエル・ロホ・ゴメス長官が1942年に造った日本風の庭園を持つ公園です。園内には鳥居、池、太鼓橋などがあり、水の中に佇立する赤い鳥居は「安芸の宮島・厳島神社」を髣髴とさせる景観でありました。また木造の三重の塔

が建てられ、茶室もあったようで、一般には El Parque de la Pagoda（仏塔公園）と呼ばれ、近隣住民からは Jardín Japonés（日本庭園）と呼ばれていました。残念な事に三重の塔は“放火”により1974年に焼失してしまいました。興味ある方は下記の西語ブログ（<http://countryclubchurubusco.blogspot.mx/>）をご参照下さい。

特筆すべきはこの公園が造られたのが1942年の2月と云うことです。メヒコは米国からの強制で同年5月22日に連合国側として日本に「宣戦布告」をしています。太平洋戦争の真っ只中に、メヒコの敵国となる国の公園＝「日本公園」を作った事は驚くべき事実であり、メヒコの「寛容」の大きさでありましょう。

大平正芳公園はメヒコの慈愛

さて、現在この公園の正式名称は「Parque Masayoshi Ohira（大平正芳公園）」です。大平さんは言葉を選んで慎重に発言したため「ア～ウ～宰相」と



して知られる第68代の総理大臣です。戦後の高度成長を突き進んできた日本に冷や水を浴びせるような、イラン革命に端を発する第二次オイル・ショックに見舞われ、大平内閣は中東一辺倒の石油輸入政策を見直さざる得ない事態に直面しました。

1978年に国賓として訪日したホセ・ロペス・ポルテイジョ大統領は、日本政府に対しメキシコ原油輸出の可能性を示唆していました。大平総理はメヒコからの原油輸入を3倍にするべく1980年5月に訪MEXして喫緊国策の資源外交を展開したのですが、米国のカーター政権の思惑が影響してか、思わしい成果が上がりませんでした。とは云え、今後のさらなる友好交流に資するための基金が「メヒコに於いて日本文化を、日本に於いてメヒコの文化を紹介し普及を支援する」として設立され、日本政府から100万ドルが、経団連募金から28万ドルが基金の原資として拠出されました。この「日墨友好基金」は通称「大平基金」と呼ば

れています。

メヒコから帰国の途中、ユーゴスラビアのヨシツプ・ブロズ・チト一大統領死去の報が入り、大平総理は急遽帰路を変更して葬儀に参列しました。そして帰国した矢先に野党提出の内閣不信任案が可決され、大平総理はすぐさま衆議院の解散、参議院も含めた憲政史上初の衆参ダブル選挙となりました。メキシコ石油輸入交渉の不調、ユーゴ吊問外交のため外遊延長の疲労、不信任案可決等々の傷心心労が祟ったのか、大平総理はその選挙遊説中に心筋梗塞に倒れ、現職総理のまま死去しました（この選挙は“大平総理の吊い戦”となり、結果自民党大勝となりました）。

大平総理死去の知らせを受けて、メヒコ政府首脳は日本の総理大臣が訪ねて来たのに“お土産”も持たさずに帰ってしまった！——こうしたアミーゴの思いやりが「パルケ・パゴダ」を「大平正芳公園」と改名することだったのです。メヒコはこのように形で大平総理の功績を顕彰したのです。豊かなアミーゴの「慈愛」を感じます。

命名式は翌年の1981年7月30日に、メヒコ側からはカルロス・ハンク・ゴンサレス＝メキシコ市長、レオポルド・サンチェス・ドゥアルテ＝コヨアカン区長、外務省幹部他、日本側からは園田直外務大臣、松永信雄大使、遠藤哲也公使他が出席して、除幕式が執り行われました。この当時は水を湛えた池に鳥居の姿が映り、美しい景観だったと言います。

大平公園を友好の礎に

いま、問題になっているのは、この「大平公園」が水は涸れて、樹木も枯れて、遊具も壊れて、荒れ放題になっている現状です。

昨年春に刊行された日墨協会の広報誌にも関連記事が掲載されました。一部を抜粋します。

「トラルパンのカントリークラブ地区にあるマサヨシ・オオヒラ公園をご存知ですか。一中略一大平元首

相は、訪墨中に日本メキシコ学院の講堂の完成除幕式に出席、帰国後、日墨友好基金が設立されたお陰で、これまで両国で様々な文化、学术交流プロジェクトが実現しました。残念ながら、マサヨシ・オオヒラ公園は老朽化が激しく、最近、メキシコ最大のサイクリンググループ、“ビシテカ”から一中略一『なんとかならないだろうか』という問い合わせメールが届いた一中略一支倉常長使節団のメキシコ上陸400周年を期に、改修が実現したら嬉しい。」(Boletín N0.160 Marzo 2013)



メヒコのアミーゴ達からこの件で相談されるにつけ、メヒコに暮らす日本人として日本の総理の名が付いた公園が荒れている現状に心を痛めています。地元住民からも公園の環境整備を求める声が上がっています。

日本とメヒコ両国の国益のために尽くしたマサヨシ・オオヒラ総理にメヒコが示した「寛容と慈愛」の心に想いを至せば、私たちはメヒコのアミーゴたちに応える努力をして行かねばなりませんね。これから多くの方々と共に「大平正芳公園」の改修に向けた運動を進め、単なる補修にとどまらない未来に向けた「文化センター」のような広場にする構想も視野に入れて、夢の実現に向けて取り組んでゆきたいものです。

このエピソードが何がしか日本とメヒコの絆となり、より一層の友好が深まる事を願っています。(了)

【編集部注：写真は遠藤さん提供】

リセオ(日本メキシコ学院)高校生の ホームステイ受け入れ家庭を大募集中

毎年恒例のリセオ・メキシココース高校生の「日本文化交流旅行」が今年も6月に行われます。

今年は男子生徒8名、女子生徒13名、引率先生1名の合計22名が来日予定です。

メキシコ・日本アミーゴ会は現在、一行が来日する直後の6月21日から23日までの2泊3日で、男女生徒のホームステイを受け入れる準備を進めています。

アミーゴ会員やお知り合いの家庭で高校生を受け入れるホストファミリーになって頂ける場合には、ぜひアミーゴ会事務局までメールで(info@mex-jpn-amigo.org)ご連絡ご相談下さい。

なお、リセオの日本文化交流旅行の報告は本誌『アミーゴ会だより』の2010年10月号および2013年10月号でお読みいただけます。

ぜひホームページでご覧下さい。

☆ホームページのURL：<http://www.mex-jpn-amigo.org/>



広島平和記念公園2013年

「400年後のサムライ」と中央高原の旅

旅たび東洋発行人 松枝勝利

【編集部注：「支倉常長とマリアッチの繋がりなんて有るのだろうか」と想像してみてください。昨年私がメキシコの日墨協会に出遭ったあの「マリアッチ・サムライ」の皆さんの勇姿はまさに文中の表現そのものでした」副会長 鴻巣勝明 記】

サムライがやってきた

仙台藩主伊達政宗の命により、支倉六右衛門常長を正使とする慶長遣欧使節が月の浦（現在の宮城県石巻市）を出港したのは慶長16年9月。最初の寄港地はメキシコ、アカプルコ。400百年後の2013年9月…刀をギターに変えて日本からサムライがやってきた。

世界マリアッチ大会。毎年9月に開催されるマリアッチの祭典は、順位を争う大会ではなく、世界のマリアッチ奏者たちが一同に会して、グアダラハラを中心

にハリスコ州各地で演奏会やパレード等を行う一大イベントだ。

昨2013年はサム・モレーノ氏を代表とする「マリアッチ・



サムライ」が日本から参加。私は同日に到着した「サムライ」ファンの方々のガイド役として約2週間、マリアッチ・サムライの公演に随行し、メキシコ中央高原の旅に同行する機会を得た。

公演随行の旅とは言え、イベント中のマリアッチ・サムライの宿泊や出演予定は主催者側に管理され、実際メキシコらしいというか、前日まで当のご本人達にも「明日どこで何をするのか」知らされない大雑把な流れ。私は毎晩、ツアーが宿泊するコロニアル調ホテルのデ・メンドーサから約10区画離れた大会参加者の指定ホテルのアランサスまで「翌日のサムライの予定」を確認しに行った。夜のグアダラハラ旧市街を歩いていると、二十数年前にこの街でスペイン語を学んだ日々、下宿の窓から眺めていたグアダラハラの夕景の美しさを思い出した。

応援団ツアー

ツアーの行程はマリアッチ・サムライの出番以外は基本的に観光である。マリアッチ発祥の地であるトラケパケを訪ね、世界無形文化遺産「マリアッチ」と同様



にメキシコを代表する火の酒「テキーラ」の産地を訪問。世界文化遺産「アガベの景観とテキーラ伝統産業」を見学。マリアッチの曲で頻繁に唄

われるチャパラル湖にも足を伸ばし、曇天の中で立ち寄った湖畔のアヒヒックでの散策を気に入って戴いた。ホテルから徒歩圏内のデゴジャード劇場、カバーニャス文化施設、リベルタ市場など、メキシコ音楽ファンの皆さんだけに何から何までお世話する必要もなく、比較的ゆったりと自由に旅を楽しんで戴く。

ビバ！マリアッチ・サムライ！

マリアッチ・サムライの初舞台。場所はグアダラハラの解放広場。州庁舎に描かれたホセ・クレメンテ・オロスコの傑作壁画

「立ち上がるイダルゴ神父」。その人が奴隷解放を宣言した地。サムライの出番が迫る。



広場は多くの市民で溢れ、一つ前の出演者に拍手を送っている。どちらかというと好感度はあるが演奏が続くうちに聴衆が飽き始めたというような印象……。

そこで「サムライ」の登場。

日本からの出演者マリアッチ・サムライの紹介と同時に1曲目「マリアッチ・サムライ・ア・ジェガード」が始まる。まず、前の楽団は12人編成だったのにも関わらず、7人編成の「サムライ」の音量が大きく聴こえることに驚かされる。各奏者の力量の違いだろう。

♪貴方に会いたくて、僕はやってきた♪と日本語で唄われる曲。恐らく聴衆の誰もが初めて耳にするオリジナルのマリアッチに一瞬たじろぎ、次の瞬間には好奇の目を向ける周囲の様子が伝わってくる。

続いてサムライが繰り出すスタンダード・ナンバーの数々。「グアダラハラ」「セレナータ・ウアステカ」「アイ・ハリスコ・ノテ・ラヘス」等々、マリアッチ好きでなくともメキシコ人なら誰もが知っている選曲の直球勝負。その技術にルミさん、オマル氏の流麗な舞踊が華を添える。好奇の目が何時の間にか好感へと昇華してゆく……。コンサートは大盛況。支倉使節団から400年後のサムライは、マリアッチの本場で耳の肥えた人々を完全に虜にしてしまっていた。

翌朝、何気なく部屋のTVを点ける。全国版ニュース番組では見知ったサム・モレーノ氏の顔が映し出さ



れていた。ファンの方たちに見せるべく携帯でTV画面を撮影したのは言うまでもない。

世界マリアッチ大会の多くの参加グループの中にはサムライ以外にも海外からの参加者、高名で有名な出演者も多数いる。その中で、ニュース番組が報道した

のはマリアッチ・サムライだけだったことは、遠い日本からの参加という物珍しさや親日的な国柄以上に、短時間で本場の聴衆を魅了したマリアッチ・サムライの実力を裏付けるものと勝手に確信する私だった。

中央高原の旅は陸路が一番

イベント予定の多いサムライと一時的に離れて、ツアーはグアダハラから世界遺産の歴史地区と鉱山の街グアナファトへ。ピピラの丘では豪雨に見舞われたりしながらも、鉱山跡、ミイラ博物館、口づけの小道などお決まりのコースを観光。次いで1810年にイダルゴ神父が「独立闘争」を始めた地であり、ランチェーラ音楽の巨匠ホセ・アルフレド・ヒメネスの生地でもあるドローレス・イダルゴに立ち寄り、世界遺産サン・ミゲル・デ・アジェンデでは廉価ながら趣味のいいホテルに投宿。パワースポット一枚岩ベルナルでは地元産ワインやチーズを試し、ケタロでは水道橋の下を歩いて通常ツアーでは決して行かない旧鉄道駅を訪問。トルテカ文明の都トゥーラで「戦士の像」を見学など、途中何泊かしながらメキシコシティまでの陸路移動。



りしながらも、鉱山跡、ミイラ博物館、口づけの小道などお決まりのコースを観光。次いで1810年にイダルゴ神父が「独立闘争」を始めた地であり、ランチェーラ音楽の巨匠ホセ・アルフレド・ヒメネスの生地でもあるドローレス・イダルゴに立ち寄り、世界遺産サン・ミゲル・デ・アジェンデでは廉価ながら趣味のいいホテルに投宿。パワースポット一枚岩ベルナルでは地元産ワインやチーズを試し、ケタロでは水道橋の下を歩いて通常ツアーでは決して行かない旧鉄道駅を訪問。トルテカ文明の都トゥーラで「戦士の像」を見学など、途中何泊かしながらメキシコシティまでの陸路移動。

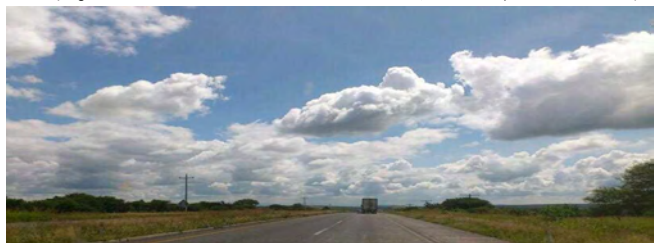
私にとって「中央高原を効果的に楽しんで戴く為には陸路旅行が最善」という持論の確認作業であった…なんてことは後ヅケで、実際はお客様たちと独立記念日の赤・白・緑で彩られたメキシコの田舎のゆったりした時の流れを享受させて戴いた。

毎年9月はマリアッチ三昧

マリアッチ・サムライはアカブルコでの公演を終えメキシコシティへ。日墨会館で催された長時間のコンサート出演で疲労困憊の中、悪天候のもと独立記念日のイベントに出演して帰国。本当にお疲れ様でした。



字数制限がなければ旅の一部始終をこの5倍程の紙面を割いて綴りたいところながら、メキシコを満喫して戴けたことにファンの皆様へ心からの感謝を表明し、恵比寿でマリアッチ・サムライの演奏が楽しめるエル・リンコン・デ・サム (<http://www.sambra.jp>) を紹介するに留めて、書き続けたい欲求と折り合いをつけよう。(2014年3月8日記)



トピックス

支倉常長訪問400年、メキシコで式典... 子孫出席

支倉常長率いる慶長遣欧使節がメキシコの首都メキシコ市を訪れて400年となった3月24日(日本時間25日朝)、常長直系13代目子孫で仙台市在住の常隆さん(67)が、メキシコ市庁舎での記念式典に武士の装束で出席した。



常隆さんはミゲル・マンセラ市長らの歓迎を受け、「使節として踏んだ異国の地で、先祖が受けた支援を感謝します。メキシコを訪問することを長い間夢見てきた。両国の素晴らしい関係のさらなる強化に尽力したい」とお礼を述べた。マンセラ市長は「両国の外交関係は400年の間に強まった。われわれは日本国民の高潔さや規律正しさなどから多くを学んだ」と述べ、支倉さんを市の賓客とする証書とメダルを贈った。

メキシコは当時、スペイン支配下のヌエバ・エスパーニャ副王領。仙台藩主伊達政宗が使節を派遣した目的の一つは同副王領との直接交易だった。常隆さんは25日には、メキシコ上院で記念スピーチを行う。

(出所:各紙ウェブより要約)(注:写真はメキシコ市庁舎を訪れた支倉常隆氏とミゲル・マンセラ市長。在メキシコ日本大使館提供)

日光の日本画家中村夫妻 メキシコで学生に講演へ



[日光]日本とメキシコの国際交流事業の一環として、日光観光大使で日本画家の中村豪志さん(54)とひろみさん(53)夫妻がメキシコで3月18、19の両日(現地時間)、現地の大学生約60人に日本画の構図などをテーマにした講演会とワークショップを開く。日本人が持つ自然美の考え方などを説明し、日本文化への理解を深めてもらうのが目的。中村夫妻は「この事業をきっかけに両国の文化交流が一層図れれば」と期待を寄せている。

1614年に仙台藩主・伊達政宗の命を受けた外交通商使節団が初めてメキシコを訪問し、ことしで400周年を迎えたことを記念して在メキシコ日本大使館が2013~14年にかけて日墨交流事業を開催。中村さん夫妻は13年5~7月にメキシコの州立美術館で作品展を開催したことをきっかけに、同国の知人から交流事業の紹介を受け、再訪して講演会などを開くことが決まった。

中村さん夫妻は13日に日本を出発し、18、19の両日、メキシコ国立自治大学とメキシコ大学院の学生を対象に講演会を開催。日本の浮世絵やメキシコの絵画を例に挙げ、絵の共通点や作品が美しく見える構図の「黄金比」などについて解説する。

また両日のワークショップでは、夫妻が鉛筆を使った和紙への作画を学生たちに指導。構図を意識するだけでなく、和紙に直接触れることで伝統工芸品の技術の高さも実感してもらい、日本文化への関心を高めてもらう。

(下野新聞ウェブ3月17日朝刊より要約)

<http://www.shimotsuke.co.jp/news/tochigi/region/news/20140317/1535221> (了)

レフォルマに並ぶ歴史③

～銅像でたどるメキシコ偉人案内～

【編集部注：メキシコで活躍している若いお二人の力作その③をお届けします。通常の旅行ガイドにも載っていない内容で本邦初演とも言えるものです。これであなたも“レフォルマ通”です。筆者は山内さん(チケット課)と酒井さん(ペリカントラベルネットワーク課)です。お楽しみください。】

メキシコ観光(メキシコ) 山内勇志/酒井梢恵



Coronel Don Gregorio Mendez Magaña (地図 7)



グレゴリオ・メンデス・マガーニャ

1836年3月27日、タバスコ州 Jalpa de Mendezにて生まれる。1887年3月28日、メキシコシティにて永眠。享年51歳。

彼は幼い頃から両親の元で農業と商売を学んでいたが、彼が16歳の時、両親が亡くなり彼は孤児となってしまった。しかし、悲しみに打ち拉がれるだけでなく仕事に専念し、事業を行うだけの資金を貯めた。1859年、彼は貯めた資金を元手に夜間学校を、翌年には音楽学校を設立した。当時彼が24歳だった頃だ。

フランス干渉戦争中*、保守派の権力が高まる中で保守派軍の Arevalo 将軍がフランス干渉軍の旗を掲げながら支持を集め、当時知事であった Victorio Dueñas を失地させた。

Don Gregorio は保守派軍・侵略軍に抗うために勢力を集め、1863年10月8日、タバスコ州 Comalcalco 市で武装決起した。

*フランス干渉戦争(1861-1867)：1861年5月、ベニート・フアレスは選挙によって正式にメキシコの大統領に就任したが、地方では保守派軍がゲリラ化して抵抗を続け、さらに財政状況も長年の混乱のため絶望的になっていた。その最中に英仏は莫大な債務支払いを要求したが、メキシコにはもはや支払い能力がなかったためフアレスがこれを拒否し、7月17日に債務不履行を宣言すると、イギリス、フランス、スペインは10月31日にメキシコ武力介入を決定、ベラクルスが三国の軍隊によって占領された。1862年4月にイギリスとスペインは撤退したが、フランス第二帝国のナポレオン3世はメキシコ全土の占領を計画していたために英西軍との同時撤退には応じず、フランス外人部隊を含むフランス軍の精鋭をベラクルスから中央高原に送った

首都が陥落するとナポレオン3世はオーストリア＝ハンガリー帝国皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の弟マクシミリアンをメキシコ皇帝として送り込み、第二次メキシコ帝国が樹立された。この措置は保守派のメキシコ人に支持されたが、マクシミリアンによる信教の自由の容認、教会財産の国有化などの措置により保守派メキシコ人が離反した。更に1865年に南北戦争を終結させたアメリカ合衆国がフアレス軍に物資の供与を始めると事態は流動的になり、また普仏戦争の勃発で1866年にはフランス軍の撤退が決定された。後ろ盾を失った皇帝マクシミリアンは自由派軍に敗れて6月19日に銃殺され、メキシコ帝国は崩壊した。7月13日にディアス將軍率いる自由派がメヒコ市に入城し、7月15日にフアレスが帰還してメキシコに共和制が復活した。

(出所：Wikipedia メキシコの歴史「フランス干渉戦争」より抜粋)



Don Gregorio の戦いを表現した絵

彼が英雄たる所以として私が思うに、部隊に指示を与えるだけでなく、部隊と一緒に戦い、誰よりも部隊の最前列に立ち、その身体で部隊を率いていたからではないだろうか。



『俺についてこい!』と言っているかのようだ

彼の身体を張った戦いは功を奏し、1864年2月27日、侵略軍を撃退、逃亡させることに成功した。

干渉戦争終戦間際の数ヶ月、彼はメキシコシティに戻った Benito Juarez 大統領に謁見し、侵略軍兵士の血で赤く染まった侵略軍旗を差し上げた。この時、Benito Juarez は何を感じたのだろうか・・・。

その後、彼にはメキシコ国軍内で大佐の階級が与えられた。大佐として軍隊に従事しつつ、引退を希望していたが、周りは彼を離さなかった。

1871年にはタバスコ州市長、その後アカプルコ市の軍隊指揮官、オリサバ市の政治・軍隊長、ユカタン州の知事、最終的にタバスコ州の知事に任命されたことから、彼がいかに優秀で余人に代えがたい人材だったかと推測される。

タバスコ州の知事に任命された少し後、メキシコシティに向かい、1887年3月28日に永眠した。

彼の銅像はここで紹介しただけでなく、彼の地元である Jalpa de Mendez に多く設置されており、彼の歴史を紹介した博物館もある。このことから、彼は Jalpa de Mendez の誇る、いや、メキシコが誇る英雄と言っても過言ではないだろう。

タバスコ州を訪れる際には、是非彼の勇姿を思い出しながら町を見渡してもらいたい。彼が守ってきたものがどれだけ果てしないものだったか、肌で感じることができるだろう。



Villahermosa にある銅像

(了)

【編集部注：MEXICO KANKO S.A de C.V.のウェブ：
<http://www.mexicokanko.com.mx/es/bienvenida>】

トピックス

メキシコ向け和牛輸出を本格化 JA 全農

JA 全農は今年2月にメキシコへの和牛輸出が認可されたことから3月から本格的な販売活動を展開する。富裕層を中心に和牛の需要が期待できるという。今後はジェトロ主催のイベントなどを活用し、カッティングセミナーも実施して百貨店やスーパー、日系、アルゼンチン系高級レストランを中心に販路拡大を計画している。来年度のメキシコへの和牛輸出は10トンを見込んでいる。（『農業協同組合新聞』ウェブ2014年3月28日付より抜粋：<http://www.jacom.or.jp/news/2014/03/news140326-23743.php>）

政井マヤ「日本メキシコ交流年」親善大使に

メキシコ人の父と日本人の母を持つフリーアナウンサーの政井マヤ（37）が1月28日、「日本メキシコ交流年」の親善大使を務めることになり、岸田文雄外相から委嘱状を授与された。

今年日本から支倉常長率いる慶長遣欧使節がメキシコに渡って400年という節目で、さまざまなイベントが行われる。

メキシコ出身の政井が親善大使として広報活動などを行っていくことになり、「両親は私が2歳の時に他界しましたが、今回の親善大使のことを喜んでくれていると思います。メキシコへは毎年行っており、友達もたくさんいます。日本とメキシコの良さを共に伝えたいと思っています」と意気込みを語った。委嘱期間は今年1月1日から12月31日まで。（出所：各紙ウェブより要約）



(了)

メキシコの子供たちに絵本を贈る

～ことばでハートとハートをつないで生きる～

NPO 法人クロスワイズ(XYZ) 理事長 横井恵子

【編集部注：忘れもしない丁度今から三年前の3月11日に東日本大震災が日本を襲いました。その後世界中の国や人々から暖かい支援や励ましの言葉を頂きました。「NPO 法人クロスワイズ」は世界中にそのお礼を言葉だけでは無く、子供たちの心に何時までも残る絵本を届け続けています。これは昨年メキシコに寄贈に行かれた時の記録です。副会長 鴻巣勝明 記】

言葉の力を通じて、人々の心が通い合う豊かな社会の実現に貢献していきたいと考え、NPO 法人クロスワイズ (XYZ) を設立したのは 2012 年 3 月のことでした。

クロスワイズの主要な活動内容の一つが、「ハートとハートをつなぐ生き方の大切さ」を世界に届けていく活動です。そこで、この精神を子供たちにもわかりやすく伝えるため、動物を主人公とした絵本「You are the only one, but never a lonely one」を書きおこし、東日本大震災における世界からの支援に対する感謝の気持ちとともに、各国語に翻訳された絵本の寄贈を進めています。

当初は一体どのようにして絵本を配布したらよいのだろうと思案していましたが、幸運なことに、さまざまな企業のトップの方々にご賛同いただき、実現に向けて歩みだせるようになりました。



そうした中で、日産自動車の COO (現副会長) 志賀俊之様にお目にかかった際、寄贈先としてブラジルはどうかとご提案をいただいたのですが、私の心の中には、ぜひともメキシコで絵本の寄贈を行いたいという想いがありました。なぜなら、メキシコは、33 年前に留学した経験から、私にとって第 2 の故郷ともいえる国だからです。その願いが叶い、日産自動車のご支援のもと、メキシコの子供たちへの絵本の寄贈が実現する運びとなったのです。

そして、2013 年 3 月、メキシコシティのアスカポツアルコ区の公立 KYOTO 小学校、ならびにトラルパン区役所において絵本寄贈記念式典が開催され、生徒や関係者など、たくさんの方が私を温かく出迎えてくれました。

どちらの式典においても、子供たちによる鼓笛隊の演奏や、両国旗を掲げての行進、両国国家



の斉唱などが華々しく繰り広げられ、トラルパン区役所での式典には、目賀田周一郎日本大使にもご臨席いただけました。私の予想をはるかに超えた盛大な催しに少々戸惑いながらも、心のこもった歓迎に胸が熱くなりました。

さらには、孤児院「Fundación Hogar Dulce Hogar」と小児がんセンター「CASA DE LA AMISTAD」を訪問し、絵本の読み聞かせに立ち会ったり、日本から持ってきた紙風船で遊んだり、子供たちと触れ合う時間を過ごせました。小児がんセンターでは、入院中の女の子が「絵本の御礼に」とポポカテペトル山とイスタシワトル山の絵をプレゼントしてくれました。この絵は、今、私のオフィスに大切に飾ってあります。



この訪問を通じてメキシコと日本との絆の深さをあらためて実感したと同時に、メキシコの人々とハートをつなぎあえた経験は、クロスワイズの活動を進めていく上で今でも大きな支えとなっています。(了)

【編集部注：XYZ の活動への応援メッセージを若田光一宇宙飛行士が宇宙ステーションから動画で届けてくれています。是非ご覧ください。URL：<http://xyz.or.jp/>】

あとがき：例年にない寒さと降雪のあとに、今度は春が急ぎ足で駆け抜けようとしています。関東では桜吹雪が風に舞い、早緑が勢いを増しています。今号(通巻第 18 号)もご覧のように、蘊蓄の深い記事の投稿を得て情報満載の会報となりました。引き続き会員のご協力を頂戴しながら魅力ある誌面作りを目指したく、皆様の積極的なご提案をお待ちします。新しい会則(第 17 号参照)に基づいて開催された総会では、2014(平 26)年度の事業と予算が報告され、会員相互の親睦と友好親善の増進に努めることが再確認されました。今年もリセオ高校生のホームステイ先を募集中(p.7)です。お台場の夏をメキシコにする Fiesta Mexicana も準備中です。メキシコ関連催事情報はメルマガで随時配信中です。アミーゴ会 HP (<http://www.mex-jpn-amigo.org/>)もお見逃しなく。[140405 か]